

2015年度の北大小児科年報の発刊にあたって

2015年度の北大小児科年報の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。北大小児科年報の発刊は、私が教授になった2004年度から始めましたので本巻が12巻目となりますが、私は今年の4月から再雇用制度にて採用された特任教授となりましたので、特任教授となってからは初めての年報ということになります。例年通り、2015年度の北大小児科とその関連病院/施設の仲間の活躍をご一読、ご批判いただけると幸いです。

2016年も残り少なくなってきたところですが、今年も日本人がノーベル賞を受賞したとの朗報が先日届きました。大隅良典先生の医学生理学賞受賞報道に日本中が沸きかえっております。私も日本人として大変嬉しく、誇りに思いました。大隅先生の研究歴を調べてみると「愚直」というこの頃は使われなくなりつつある言葉が連想されました。受賞の対象は、先生がひたすら酵母を光学顕微鏡で観察していて発見した現象で、すべての細胞が持つ基本的なエコシステムと言われるオートファジーだそうです。先生は基礎研究の重要性：人がやらないような、光が当たらない分野の研究に対する重要性を訴えていらっやいましたが、そのことが世間に通じたかどうかは以後の報道を見聞している限り疑問に思っております。

さて、今年度の北大小児科は、可もなく不可もなく過ぎたように思います。もう少しトップがしっかりしないとダメなのかもしれませんが、2016年はより大きい成果のための準備期間とご理解ください。ノーベル賞に限らず、立派な仕事には多くの時間と努力、多少の運が必要です。各自の精一杯の努力は水面下で行われていることを承知しておりますので。

北海道大学大学院医学研究科

小児科学分野 教授 有賀 正